

# 名古屋大学留学生センター地域貢献事業

## 日本語ボランティア研修会「学習者の視点に立った教材の選び方」

浮 葉 正 親

### はじめに

愛知県をはじめとする東海地域は、在日外国人の日本語を支援するボランティアの活動が盛んな地域であり、愛知県下だけでも70あまりの日本語教室が開かれ、およそ1,800人のボランティアがいると推定されている。日本語ボランティアの多くは日本語を教えるための知識も技術も充分ではなく、日本語学習支援のためにさまざまな工夫を考えているが、何をどのように教えたらいのか、自信が持てず、試行錯誤を繰り返しているという。

そこで、この研修会では、中国帰国者定着促進センターで長年、日本語教育に携わってこられた池上摩希子氏（早稲田大学大学院日本語教育研究科助教授）を講師に迎え、外国人学習者の視点に立った学習素材の選び方をテーマにした研修会を開催した。

**【事業の概要】**（別紙案内チラシ参照 p. 56）

**【参加者】** 日本語ボランティア105名、日本語ボランティア希望者10名、その他16名（小中学校教員、国際交流協会職員等、主催者側） 計131名

**【講演】**「『学習材』としての教材—学習者の学びを促す材料を探そう—」

講師：池上摩希子氏（早稲田大学大学院日本語教育研究科助教授）

（要旨）

地域に定住する外国人が増えるにつれ、日本語を学ぶ外国人学習者のニーズが多様化しています。例えば、仕事をしている人もいれば、小さな子どもを抱えている母親もいますし、学校に通っている子どもたちもいるというように、彼らが必要とする日本語もさまざまです。彼らの日本語学習を支援するボランティア活動

も盛んですが、ボランティアの方々からは、いったいどうやって教えたらいのか、何を使って教えたらいのか、難しいという声をよく耳にします。

今日は、そのなかの教材について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。そのために2つのトピック、一つは「学習材」（この言葉は私の造語です）、もう一つは学習者のニーズについてお話をしていきます。

まず、教材を選ぶために知っておきたいことは何でしょうか。この人はなぜ日本語を勉強しているのか、何のために日本に来たのか、何語を母語にしているのか、出身国で何をしていたのかなど、皆さんも考えると思います。これらは学習者がどんな人であって、何をしたいと思っているのかということですが、ボランティアの活動をしながら、それらを詳しく知るのはいくらでも簡単なことではありません。

次に、私たちが教材というものを持ってきて何ができるのだろうかという問題です。実は、学習者が多様化するにつれ、教材も多様化しています。例えば、子ども用、中国帰国者用とか、レベル別にも教材が出されるというように、教材の精緻化が進んでいるのです。そうすると、教える側にはその教材をどうやって上手に教えることができるかという技術がもとめられるようになってきます。しかし、その技術の向上だけを追



求すると、「教材を教えること」が目的になる危険性もはらんでいます。その教材を上手に教えることが目的になると、教材選びの最初にあった学習者への関心が置き去りになりはしないだろうかと思うのです。教材は教材を教えるためにあるのではない、ということは皆さんも賛成していただけるのではないのでしょうか。

つまり、地域の実情に合わせて教材を探していこうということですが、そこで「学習材」という考え方を提案しています。教える私たちが決めることは何でしょうか。教える内容、順序、教え方などでしょうか。では、学習者は何をもとめて来るのでしょうか。「学習材」という考え方は、その両者をマッチングさせるプロセスで出てくるものです。何をどのように教えるか、学ぶか、ということは支援者と学習者が一緒に決めてもいいのではないかと、という発想が「学習材」という考え方の始まりです。「教材」という言葉は「教える材料」を意味していますが、教える側と学習者が学習を進める材料であれば、「学習材」と呼んでいいのではないかと考えたのです。

それでは、二つ目のトピックである学習者のニーズを考えてみましょう。「ニーズ」には、自覚されたもの、表にあらわれたもの（「要求」）とまだあらわれていないが、求められるもの（「必要」）の二つがあります。学習者のニーズを考えると、人間の欲求の階層性に注目したマズロー（A.Maslow）の仮説が参考になります。マズローによれば、人間の欲求には、最も基本的な生理的な欲求から、安全の欲求、所属と愛の欲求、承認の欲求、そしてもっとも高次の自己実現の欲求まで、いくつかの階層が見られ、人間は基本的なものから先に満たそうとする傾向があるということです。このような人間の欲求の階層性を外国人定住者の定着過程にあてはめてみましょう。そうすると彼らのニーズがライフステージによって変化してくること、それに応じて必要とする日本語も変わってくるのがわかります。支援者にできることは、ライフステージに応じて変化してくる学習者の「声」を引き出すこと、学習者自身も気付いていないニーズを意識化させることです。

今日のお話でもっとも言いたいのは、支援者が日本語を教え込むことからもっと自由になって、まわりにある生き生きとした日本語の材料を選び、学習者のニーズに沿わせてあげることが重要だということです。



### 【アンケートの集計結果】

参加者101名からアンケートを回収した。その結果、「今日のセミナーは期待に沿うものでしたか」という設問には、28名（29%）が「期待以上で、とても満足した」、54名（56%）が「期待通りでまあまあ満足した」、14名（15%）が「やや期待はずれだった」と回答している（無記入5名）。以下、自由記述欄に寄せられた感想を拾い出してみる。

- 今日のお話を聞いて、学習者のニーズをもっと知らなければならぬと改めて思いました。どうしても「教材〈を〉教える」ことをしてしまい、いかに分かりやすく教材を教えるかにこだわっていた自分に気づきました。もっと頭を柔らかくして対応していけたらと思いました。
- 具体的な教材の選び方の研修かなと思っていたので、期待とは違った内容でしたが、先生のお話には大いに共感するところがありました。所属している教室がテキストの進行や文法をととても重視するので、私自身プレッシャーを感じて少し違和感があったのですが、今日のお話をうかがって気持ちが開放されました。
- ボランティアを始めたばかりなので、今後の活動に対する意欲が高まりました。池上先生が強くおっしゃった「学習者のニーズに沿う」ことをいつも頭において活動していこうと思います。
- 学習者の「声をひきだす」ということ、学習者自身も気付いていないニーズを引き出してくる、そこまで自分がかんがえなかったなあと、これからの活動にいい課題をいただけたと思います。
- 教材選びは身近なものからできること、そのためには相手をよく知ることが大切であることを今一度

考えさせられた。今日のお話は現職者にはよく理解できたが、これから始めようとする人（新しい人 etc.）には抽象的で分かりづらいのではないと思う。

- 抽象的な話が多くて、これは経験がある人なら実感していること。それを先生が言葉にしたといった内容。学習材についてもっと具体的な内容を期待していました。
- いろいろな学習者、支援者が日本語教育に関わるのは悪いことではない、というお話が一番印象的でした。環境が違う、ニーズが違う学習者たちに対しての苦手意識がなくなりました。

なお、この研修会に対する意見や今後の希望するテーマについては、「今回の内容をより具体化したもの。ワークショップを含め、参加者相互の意見交換の場があるとよい」、「年少者の学習支援に関するもの」、「外国人の子どもに日本の公立学校においてどのような支援活動が行われているのか、についての実践報告。また、地域によってどのような組織の中で日本語支援が行われているか。これから先、自分がボランティア以外でどのような支援や協力ができるか知りたいし、

考えていきたい」、「各地域にあるボランティア・グループなどで、オリジナル教材などうまく活用されている工夫などがあれば、情報を得たいと思う」、「日本語ボランティアとして行政に働きかける方法」という答が寄せられた。今後の参考にしていきたい。

#### 【おわりに】

この研修会は、留学生センターの地域貢献事業として、(財)愛知県国際交流協会、(財)名古屋国際センター、東海日本語ネットワークとの共催で行ったものである。留学生センターとこの三団体との連携は5年前に始まり、研修会は平成17年度が4回目となる。回を重ねるたびに参加者も増え、今年度は定員100名に対して、参加者は131名を数えた。愛知県ばかりでなく、岐阜県、三重県、静岡県からも参加者が集まり、東海地方における日本語ボランティア活動に対する関心の高さを裏付ける結果となった。

年に1回の研修会ではあるが、定期的に共催事業を実施することで4団体の連携は密になりつつある。次年度もこれまでの蓄積を生かして、より充実した研修会を開催したい。

名古屋大学留学生センター地域貢献事業

## 日本語ボランティア研修会

### 「学習者の視点に立った教材の選び方」

愛知県をはじめとする東海地域は、在日外国人の日本語を支援するボランティアの活動が盛んな地域です。愛知県下だけでも70あまりの日本語教室が活動しています。日本語ボランティアの皆さんは日本語学習支援のためにさまざまな工夫を考えていますが、どのような活動をしたらいいか困っているという声もよく聞きます。

そこで、今回の研修会では、中国帰国者定住促進センターで長年、日本語教育に携わってこられた池上摩希子先生をお迎えして、外国人学習者の視点に立った学習素材の選び方をテーマにお話をさせていただきます。

【主催】 名古屋大学留学生センター、(財)愛知県国際交流協会、  
(財)名古屋国際センター、東海日本語ネットワーク

【日時】 平成18年2月11日(土) 14:00-16:10(13:30受付開始)

【場所】 名古屋国際センター 別棟ホール

名古屋市中村区那古野1丁目47番1号 TEL: 052-581-5689

地下鉄桜通線「国際センター」駅すぐ

ホールへの出入り口は地上のみですので、地下からお越しの方はビル1階の北側出口からホールへお入りください。

【日程】	13:30	受付開始
	14:00	開会挨拶
	14:10	講演・ワークショップ 「学習材」としての教材－学習者の学びを促す材料を探そう－ 講師: 池上摩希子氏 (早稲田大学大学院日本語教育研究科助教授)
	16:10	閉会

【対象】 日本語ボランティア現職者、日本語ボランティア希望者

【定員】 100名

【参加費】 無料

【申し込み方法】

1) 別紙申込み用紙をファックスまたは郵送で。

2) E-mail による申し込み

◆申し込み・問合せ先◆ 名古屋大学留学生センター 浮葉正親

〒464-8601 名古屋市中村区不老町

TEL:052-789-5771 FAX:052-789-5100

E-mail: j46084a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp

【申し込み締め切り】 平成18年1月20日(金)